慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	インターネットを活用した少数民族伝統文化の伝承
Sub Title	The use of Internet to inherit the traditional culture of minority
Author	Kutuxi, Ayisunu(Ōkawa, Keiko) 大川, 恵子
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2017
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2017年度メディアデザイン学 第599号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002017-0599

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2017年度(平成29年度)

インターネットを活用した
少数民族伝統文化の伝承

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科

Kutuxi Ayisunu

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に
修士 (メディアデザイン学) 授与の要件として提出した修士論文である。

Kutuxi Ayisunu

審査委員:

大川 恵子 教授　(主査)
岸 博幸 教授　(副査)
中村 伊知哉 教授　(副査)

修士論文 2017年度(平成29年度)

インターネットを活用した少数民族伝統文化の伝承

カテゴリー: アクションリサーチ

論文要旨

本論文は、インターネットを活用した少数民族の伝統文化の伝承方法を研究したものである。

現代のキルギス人は、漢民族の文化に対する関心度が増え、伝承の民族意識が弱くなっているのが現状である。これは、キルギス民族に限らず、他の民族にも起きている現象であり、これの改善は早急に必要とされている。

現代の中国のインターネット利用者数は人口の半分以上を超え、利用者は世界一となっている。だが、中国のインターネットのコンテンツのほとんどが漢民族が作成したものであり、少数民族の中国人からすると理解が難しいものや、使用が難しいものになっている。少数民族は、政府に戦略的に漢民族よりの文化に調節され自分達の文化を失いかけている。現在、中国では少数民族が見られるコンテンツが限られており、少数民族には不利な環境である。そこで、本研究では、少数民族の文化を紹介する番組を開発し、インターネット上で生放送や動画配信をすることにより、放送という枠を超えたメディアを利用した民族文化伝承の手法を提案する。

本研究では、中国の少数民族文化を継承することを目的として、自由に様々なコンテンツを選択して番組を制作した。番組は、インターネット上でのライブ配信を 6 回実施し、キルギスの若者達を含め述べ 300 人が参加した。その結果、キルギス文化に対する肯定的にイメージを醸成されたことが確認できた。

キーワード：

キリギス伝統文化, 生放送, 番組, 伝統楽器, 伝承

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科

Kutuxi Ayisunu

Abstract of Master's Thesis of Academic Year 2017

The Use of Internet to Inherit the Traditional Culture of Minority

Category: Action Research

Summary

This thesis proposes to inherit the traditional culture of minority in different way with the use of Internet service.

In present, the Kyrgyzstan in China (one of the fifty six of the ethnic group in China) are more interested on the Han culture compare to its own culture, Kyrgyzstan knowledge of its own national culture has been reduced and less care because of the Internet. This problem does not only occurs in the Kyrgyzstan in China but also happened in other ethnic group in China, therefore it is really important to change this situation in order to prevent the extinct of its own culture.

The number of people who use Internet service in China exceeds half of its population, and the number of Internet user also believe to be the No.1 compare to the entire world. However, the Chinese Internet content is mostly designed by the Han Chinese. As a result, for the minority ethnic group in China, they have difficulty to understand and use it. Furthermore, the Chinese government has also implied different political strategies to unitize all the Chinese citizen to learn Han culture, this has led to more and more all the traditional culture of the minority ethnic group has been lost. In present, the content that can see in China has been limited, this has been a disadvantage environment for the minority ethnic group in China. Therefore, in this research, the Broadcasting shows will be created on

the Internet by doing live broadcasting programs and by uploading video on the Internet to introduce minority ethnic culture. The use of broadcasting as a media tool to make the people to understand more and more their own culture and to inherit it in order to prevent the loss of its own culture.

In this research, the purpose is to pass the traditional culture of minority from generation to other generation, it is important to have freedom to choose different contents to create broadcast show. The whole broadcast will contain 6 live programs on the Internet. In these 6 live broadcast programs, there are 300 people (include Kyrgyzstan youth). Since these 6 live broadcast programs on air, it has a build up a positive image for the Kyrgyzstan traditional culture.

Keywords:

Kyrgyzstan Traditional Culture, Live Broadcasting, Program, Traditional Musical Instrument, Inheritance

Keio University Graduate School of Media Design

Kutuxi Ayisunu

謝　　辞

本研究の指導教員であり、幅広い知見から的確な指導と暖かい励ましやご指摘をしていただきました慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の大川恵子教授に心から感謝いたします。

研究の方向性について様々な助言や指導をいただきました慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の岸博幸教授に心から感謝いたします。

研究指導や論文執筆など数多くの助言を賜りました慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科の中村伊知哉教授に心から感謝いたします。

目　　次

謝辞 v

第 1 章　序論 1

1.1. 研究の背景 1

1.2. 現状調査 2

1.2.1 中国の少数民族教育による支援 2

1.2.2 キルギス伝統民族文化教育の現状 3

1.2.3 伝統民族文化のネット上での現状 4

1.2.4 キルギス民族文化の宣伝による支援 5

1.2.5 伝統民族文化の宣伝と教育における問題点及び課題 6

1.3. 本研究の目的 6

1.4. 本論文の構成 6

第 2 章　関連研究 7

2.1. マナス 7

2.2. 三味線 (千本桜) 8

2.3. 伝統 9

2.4. 伝統文化を伝承の必要性 10

2.5. 伝統文化による行わってるイベントや番組 12

2.6. まとめ 13

第 3 章　研究設計 15

3.1. 概要 15

3.2. 番組計画 16

3.3. メンバー 18
3.4. 特徴 18
3.5. まとめ 19

第 4 章　実践と評価 20

4.1. アクション 21
キルギス伝統盻文化の紹介(服装、楽器、歴史など) 21
生放送後のフィード バックの収集 22
生放送番組実践 23
生放送番組の実行 2 23
実行結果・ 評価 24
一回目生放送番組 24
二回目生放送番組 26
アクション 1からアクション 2への反映 29
4.2. アクション 2 29
キリギス伝統音楽 29
生放送番組実践 30
実行結果、評価 31
三回生放送番組 31
四回生放送番組 33
アクション 2からアクション 3への反映 35
4.3. アクション 3 36
キリギス伝統楽器と 現代音楽の融合 36
実行結果、評価 38
五回生放送番組 38
六回生放送番組 40

第 5 章　結論と 今後の展望 42

5.1. 本研究の成果 42
5.1.1 実践の成果 43

5.2. 課題と今後の展望 45

参考文献 **48**

付録 **49**

A. 生放送台本の流れ 49

図　目　次

3.1　生放送の計画 3 時間 17

4.1　キリギス民族に関する基本知識 22
4.2　キリギスに対する知識と関心 24
4.3　キリギス民族に関する基本知識 25
4.4　キリギス民族に関する基本知識 (2) 26
4.5　キリギス民族に関する基本知識 (3) 27
4.6　キリギス楽器のアンケート 32
4.7　キリギス楽器 33
4.8　キリギス楽器を聞きたい 34
4.9　演奏者からの意眈見 40
4.10　融合演奏 41
4.11　放送番組後で見たいフィドバッグ 41

5.1　伝統民族楽器に興味あります 44
5.2　キリギス伝統音楽に対するイメージ 44
5.3　キリギス伝統民族音楽を弾いてみたいと思います 45

第1章
序　　論

1.1. 研究の背景

少数民族文化は、形態の多様性、3次元性の分布、環境の適応性、継承の謎、一般人の認識など、独自の言語的背景と特殊な地理的特徴のために、独自の国籍を形成してきました文化。キルギス族は主に新疆西部に位置するエリアに住んでいる。民族の多くはキルギス語を使ってる。キルギス族は誕生儀式、揺籃儀式、満1か月儀式、割礼、葬儀、結婚儀式などの人生の儀式を重要視し、祖先から伝承された風習とルールに基づき行う。しかし、漢民族への同化に伴い、貴重な少数民族の文化を伝承することは益々難しくなってきた。新疆ウイグル自治区の育現場にて、民族国語及び音楽体育美術等の民族の伝統的な文化に関する課程はその民族の言語で行われ、他は漢語で授業を行うことが分かる。一部の民族は人口が少なく、バラバラに住んでいるため、自民族の言語の使用は日常生活や家庭内の範疇に限られている。したがって、キルギス語を利用しているのはほとんど高齢者であり、若者の利用は少なくなっている。言語の伝承はその民族の文化を伝承する最も重要なルートであり、一つ一つの民族の発展に関わるものでもある。少数民族の言語教育に関する有効な施策を取り入れないと、キルギス族の伝統的な文化は徐々にこの世界から消えていく恐れがある。(蘇紅, 蘇紅 1997) なので伝統文化や古典芸能、地域に根付く民俗文化などに触れ親しむことで、私たちは自国や地域に愛着を感じ、少数民族としての誇りを抱くことがでると思う。

1.2. 現状調査

1.2.1 中国の少数民族教育による支援

中国が 55 の少数民族が存在する。前述の通りその居住範囲が広く、それぞれの環境下で独自の伝統文化を形成してきた。多くの解決が難しい少数民族問題に対して、中国は各少数民族の歴史や文化に基づいて、伝統を尊重する民族政策を推進してきた。中華人民共和国憲法の第 119 条には、「民族自治地方の自治機関は、主に当該地方の教育、科学、文化、衛生、体育事業を管理し、民族の文化遺産を保護・管理し、民族文化を発展・繁栄させる」と記されている。中国では教育は、「政治と経済の道具」に位置づけられている。逆に言えば、教育が政治・経済の手段になることにより、少数民族教育理念の検討と政府発言の分析が不可欠なのである。調査によると、王錫宏は中国の民族問題を解決するため、政治、経済、教育という三つの手段があるとまとめている。その中に、各民族の素質を高め、少数民族出身の各種人材を養成するため、教育的な手段は欠かせないと述べている。政府は少数民族幹部の養成を非常に重視している。少数民族の人材及び民族幹部を養成するため、1951 年北京で中央民族学院が創設された。「大学」と「学院」の名称について、文系・理系に跨る基礎の学科（文学、歴史学、哲学及び数学、物理学、化学など）の機関を「大学」として、応用的な学科（法学、経済学、工学、農学、医学など）の機関を「学院」と称し設立された。また「大学」や「学院」での課程は 4－5 年制の「本科」と 2－3 年制の「専科」に分かれている。民族学院の中に「本科」と「専科」が存在する。「専科」だけがある高等教育機関は「高等専科学校」と呼ばれる。前身の延安民族学院が中国最初の少数民族高等教育だとされている。中清朝末期 1908 年に成立された満蒙高等学堂であるが、中国共産党はこれが少数民族高等教育だと認めていない。中央民族学院の誕生と同じ時期に全国各地に数十所の民族学院を設立された。少数民族の人材を大量に養成するため、民族学院以外にも、高等教育機関で民族クラスや民族予科クラスを設立・運営して、少数民族学生を受け入れるのが大変重要になる。中華人民共和国区域自治法の第 71 条に明らかに示されている。「国家は民族学院を設立し、高等学校で民族クラスと民族予科クラスを設立し、主に少数民族の学生

を受け入れる。高等学校と中等専門学校は新入生を選抜する時、少数民族の学生に対して、特に人口が少ない少数民族の学生に対して、優遇政策を実施する。各レベルの人民政府と学校は、多種な措置で家庭経済状況が悪い少数民族の学生を援助し、学生の学業を修了させる。民族クラスは普通の大学での少数民族学生のために設立され、この制度は1980年代から正式に開始した。1980年代に主に北京大学、精華大学、北京医科大学、大連理工学院、西師範大学が少数民族地区から学生を募集したのが民族クラスの始まりだった。民族予科クラスの歴史が長く、1953年から中央民族学院で活動していた。中央民族学院は1993年11月30日国家教育委員会の批准を経て、中央民族大学へ変更した。その意義は、政府が少数民族教育に、中央民族学院の規模の拡大、質の向上である。 現在、多くの「学院」は学科を拡大して、大学となった。小川佳万は民族学院の総合大学化が各少数民族を見捨てるのではなく、少数民族地区が漢民族地区と同等にするという積極的な意味を見出している。しかし民族学院が総合大学へ移行し、少数民族地区と漢民族地区が同じ学校制度を採取し、民族教育の特徴が薄れる可能性があると考えられる。

1.2.2 キルギス伝統民族文化教育の現状

キルギス族の居住区は主に僻地にあり、交通条件が悪く、情報が詰まり、経済が遅れ、生活と仕事の環境が厳しい。地域環境や経済発展状況の制約があるので、民族地区の発展のスピードが遅く、教育が発展しておらず、教育観念が薄いなどの問題が多発している。他の少数民族地区の教育に比べると、発展のスピードがマイナス成長を表している。少数民族地区の基礎教育は以下の問題が存在している。第一、少数民族では教師の給与待遇が悪い。大部分の民族教師の賃金が低くて、生計にも維持できないまでのこともある。あるいは多くの教師は転職し、経験のある教師はだいぶ待遇の良い大都市に行ってしまい、田舎の地域の教育はハードウェア施設にもソフトウェア施設にもほかの地域と並ぶものではない。また、教師の不足は漢学、数学だけでなく、ほかの課目にも同じ状況である。特に、美術、音楽及ぶコンピューターなどの課目だ。たくさんの学生は教科書があるが、教える人はいない。将来、高等教育を受ける機会があったとしても、自らが「ス

タートラインで負ける」という劣等感が生じる。ということは学生の将来の発展に不利である。家庭教育というと少数民族の家庭は民族文化に対する認識が欠けて、伝承の積極性が高くない。

急速な社会発展と競争の激しさで、現代生活意識が影響された、多くの少数民族の親は、もはや伝統的な民族文化を子供に勉強すべき最優先課題とは思わず、逆に家庭教育の中で功利性が重点として強調され、子供の知識技能の習得に心掛けてしまう。学校教育には主流文化の教育が重視され、非主流文化は同化や消滅に直面される。このような時代背景の下で、家族教育にはもっと重大な役目があるはずだ。時代の発展は年長者にも影響を与える。この時代には主流文化が強調され、親にも主流文化が浸透し、家庭教育の機能が弱くなっており、少数民族の文化の後継ぎは制限されてきている。大半の一般家庭では民族文化に対してのはっきりな認識が持っておらず、後継ぎの熱意もあまり高くない。急速な社会発展と競争の激しさで、現代生活意識が誕生した。民族文化を子供に勉強すべき最優先課題と思わず、子どもの労作の概念や習慣の育成に無関心な態度を持ってくる。逆に家庭教育の中で功利性が重点として強調され、子供の知識技能の習得に心掛けてしまう。学校教育には主流文化の教育が重視され、非主流文化は同化や消滅に直面される。このような時代背景の下で、家族教育にはもっと重大な役目があるべきである。

農業家庭では、ほとんどの家庭は自給自足な経済状態であり、疎遠であるため政府からの支援力が足らず、現代文明に引かれて、ますます多くの若者が大都市に集まり、時間の流れにつれて、彼らは自己民族文化が離れ、伝統知識も薄く、ひいては一部の若者がわざと民族文化の勉強チャンスを避け、少数民族文化はより急速に消滅してきている。

1.2.3 伝統民族文化のネット上での現状

グローバル化において、情報ネットワークの発展は少数民族文化を薄くし、現代教育の発展を推進する様にも見えるがグローバル化の一つの特徴はコンピューター、インフォメーション及び通信技術を基礎としての情報ネットワークの高速的な発展、今までのない規模と速度で人の生産や生活を変えていく。それで、少

数民族文化の伝統や交流はより便利になり、ネットワークのある国家はネットを通して、本国の民族文化を世界に広げることができる。インターネットを発展により、少数民族文化に影響与えている。特にイスラム教を信教している少数民族は、ネット上で交流をすることにより、違う観念を信じ込み、反政府的な行動をとる者も増えている。この様な行動を取らないために、中国政府はネットの規制を強めている。

1.2.4 キルギス民族文化の宣伝による支援

キルギス族の文学遺産で、民間文学は最も重要な地位にある。主に神話、伝説、物語、叙事詩、寓言、民間歌謡、ことわざ、早口言葉などの形式があり、内容が豊富であり、題材が様々である。「マナス」は規模が雄大で広く伝わる叙事詩であり、国内外でもその名が知られている。この作品はキルギス族の社会のあらゆる面に触れ、キルギス族の言語、歴史、宗教、文化、政治、経済、哲学、美学、軍事、医学、習俗を含める百科全書である。マナスに関する映画、小説、ドキュメンタリーが多く作られ、キルギス族の文化の発展に対する宣伝に良く役立った。

また、キルギス族には独特な工芸美術があり、そのうちに刺繍、編み物が最も有名である。キルギス族の婦女は刺繍が得意であり、彼女たちは頭巾、枕、敷布、袖及びいろんな織物の装飾品などに精緻な模様を刺繍し、特に草花、鳥や獣と幾何模様が多い。彩りが鮮やかであり、いきいきしている。彼女たちに編まれた壁掛け、絨毯は、柄と色が精美で美しい。フェルトの帽子、銀鞍、木碗などは、精巧できれいであり、古めかしく質朴で丈夫である。工芸品の色は赤、青、白を主とするが、赤色は最も人気がある。そのほか、キルギス族の舞踊の内容は牧畜業、農業、手工業、狩猟などの生産と生活情況を反映することが多いが、牧畜業の生産と生活を反映する舞踊が最もよくある。

キルギス族の文化はまだ普及していない。映画などで伝えるだけでは足りなく、ネットが普及している現在は、ネットのルートでキルギス文化を普及させるのはさらに効果が良いと思う。他には、急速に発展している観光業に頼り、多くの人をキルギス族が住んでいる地区に呼ぶことにより、キルギス族の生活を知り、彼らの独特ですばらしい文化を味わうことで共感してもらうこともできる。

1.2.5 伝統民族文化の宣伝と教育における問題点及び課題

少数民族文化発展の基本形式は文化融合、これが少数民族文化発展の最終目標であると思う。発展の趨勢は個体差異がどんどん縮小し、次第に増大し、融合に通じて少数民族文化の発展を見られるはずだ。新しい形式作りは少数民族文化発展の新しい特徴だと思う。先進技術を代表するインターネットは必然的に少数民族エリアに入ってきており、情報統合とグローバル化な環境で、様々な文化が互いに融合することを避けられないとはずだ。単にネット技術を利用するというのも、少数民族文化の宣伝や発展に大きな利点になるはずだ (馮驥才 2007)

1.3. 本研究の目的

本研究では、消滅しそうなキルギス民族文化を保護することの視点から、現在の若いキルギス民族達が本民族の文化に対する意識が弱くなってきたことを明らかにし、現代ネットワークのライブ機能の優勢に利用し、若いキルギス民族達が本民族の文化に対する関心度が向上させ、伝承の民族意識が強くさせることを目的にする。

1.4. 本論文の構成

本論文は第一章から第五章で構成されており、第一章では私が本研究を行うことにした背景や現状調査や機動が述べられており、第二章では関連研究について述べられてる。第三章ではどのような番組を設計したのかを、第四章では実践並びに評価の結果が乗せられてる。第五章では、第一章から第四章のまとめとして結論及び今後の展望を記載してある。

第2章
関 連 研 究

2.1. マナス

マナス」はキルギス族の民族叙事詩である。中国に記録された材料によると、八部があり、20 万行以上の長さがある。「マナス」とは、広義に言えば全叙事詩を指し、狭義に言えば第一部を指す。叙事詩「マナス」の主人公は一人だけではなく、家族八世代の子孫である。全叙事詩は第一部での主人公の名前で詩名をつけた。「マナス」は主にキルギス人は困難と危険を恐れなく、勇気を奮い起こして戦い、良い生活を作り、偉大な愛情をたたえる物語を話す物語である。八部に分けられる。(居素普瑪瑪依 2004)

「マナス」は込み入った筋と美しい言葉を通じて、歴史でキルギス人が勒克人、契丹人に奴隷のように酷使されることに抵抗し、裏切り者を粛清し、横暴を処罰し、妖怪や悪魔を退治し、人民のために害を取り除く闘争を反映し、古代キルギス族の人民が自由をたたかい取り、幸福な生活を熱望する理想と願望を表わした。

「マナス」はただの貴重な文学遺産だけではなく、キルギス族の言語、歴史、民俗、宗教などを研究する百科全書になり、文学鑑賞価値だけではなく、重要な学術研究価値も持っている。例えば、叙事詩で現れる古い語彙、族名伝説、移動路線、古代中アジア、新疆各民族の分布及び関係、大量のキルギス族に関する遊牧生活、家庭メンバーの関係、生産工具、武器製造及びキルギス族に関する服飾、飲食、居住とイスラム教を信仰する前のシャーマニズムの習俗などは、すべて非常に貴重な資料である。

「マナス」は深い人民性と思想性を持つ典型的な民族叙事詩である。初めから終わりまで、すべての酷使された人民を結束し、異族統治者の略奪と酷使に抵抗

し、自由と幸福な生活を取るためにたゆまない戦いをする。酷使された人民の打ち負かすことができない精神状態を表わし、古代キルギス族の人民が侵略者に対する抵抗精神と闘争意志をたたえた。

2.2. 三味線 (千本桜)

三味線は日本の伝統弦楽器であり、中国の三弦に似ている。棒状の長い棹と四角状の扁平な木製の胴という二つの部分で構成する。三味線の弦は絹糸で作るのが一般的であるが、ナイロンの材料で作ったのもある。演奏者は象牙、水牛の角、鼈甲などの材料で作った撥を用い、弦を弾き演奏する。音色が清らかで清浄である。三味線の種類で津軽三味線は体積が最も大きいのである。(将美林 1999)

また、三味線は歌舞伎の主な伴奏楽器である。三味線伴奏の「長唄」は、日本で 400 年の歴史があり、濃厚な江戸文化を反映し、すでに現在の日本伝統文化の重要標識の一つになった。上妻宏光、吉田兄弟、長山洋子、高橋竹山、北島三郎、杵屋五三助などの有名な演奏者がいる。

日本民族伝統楽曲で、今でもいろんな流派の作品が残されていて、様々な形式に発展した。しかも、現代曲目をたくさん作った新民楽主義者(例えば吉田兄弟)も多い。日本の伝統楽器として、三味線にはかなり高い地位があり、重要な歴史芸術価値をもっている。

時代が発展しているが、三味線も時代の歩みに後れをとらない。伝統楽器の三味線は、よく ACG 領域に現れ、若者の世代でも広く知られた。千本桜は 2011 年 9 月 17 日に、黒うさ P がニコニコ画に投稿した作品であり、初音ミクの代表的な曲目の一つである。この曲は大正時代を背景にし、大正時代の日本の清新な気風と大正天皇の厳正をたたえた。清新、叙事詩、虚栄、桜、純潔などの語彙はこの曲の専用代名詞とも言える。世界各地に話題になった。

その後で、三味線で演奏する千本桜が現れた。伝統楽器と和風ロックが完璧にとけ込まれ、クラシックで美しい音色と浮き浮きさせる曲調を組み合わせ、伝統を受け継ぐと同時に、全世界に日本楽器の伝統の美しさと音楽の美しさを見せた。

2.3. 伝統

「 伝承」とは、日々の生活によく耳に入る言葉である、字面から理解すると、古くあるものを後世に伝えていくと簡単に分かれると思う。「 伝承」の意味は簡単だと思われるので、古くから伝えられるものは一体何だろう、どういう形で伝えられるのか、伝承は我々の生活にどんな影響を与えるかなどについて、普通の人はあまり考えないと思う。下記の内容はこれについて述べたいと思う。

「 伝承」とは、昔からあるものをそのまま引き継ぎ、守っていくことである。伝承はある集団のなかで古くからある慣習、風俗、信仰、伝説、技術や知識などを受け継いで後世に伝えていくこと、もしくは、そのように伝えられた事柄や物を指す。これらのものは全部歴史学や民俗学にとって、重要な資料となる。

伝承の形は行為伝承と口頭伝承に分けられる。民俗行事や芸能など、その行為が伝承されていくことを行為伝承というのに対し、神話や叙事詩、伝説、民俗語彙など口頭で伝承されるものを口頭伝承もしくは口承と言われる。また、口碑と呼ぶことも多い。なお、古民家のことを伝承家屋と呼ぶこともある。

更に細かく分けると、それぞれの伝承には複合的な性格が有するので、単純に分類することはできず、社会には一般的に下記のように便宜的に分類される。

- 社会伝承…村のしくみや家族· 親族に関する伝承。通過儀礼など人の一生に関する伝承
- 生活伝承衣食住、生産、交通· 交易、歳時習俗などの伝承
- 信仰伝承…祭りや講など。
- 文化伝承…芸能、民間療法と俗信、口頭伝承 (口承)、方言· 民俗語彙

伝承には世代を超えて受け継がれた普遍的な価値と精神性、人間の行動様式や思考、慣習などの歴史的存在意義などがある。伝統のものには、国を主体に受け継がれてきたものや、地域社会や家を主体に受け継がれてきたものなどさまざまな形で今日まで伝承されてきたものがある。

社会伝承の面について、社会生命である人類の社会性の部分の世代間伝承は遺伝子によるだけではなく、教育や家庭でのしつけ、社会制度など、いわゆるマナー

と呼ばれる学習も結構重要な地位が占めるとなされる。社会文化の脈々とそのままで受け継がれてきたことがあるこそ、我々は社会人としての基本的な常識が常にあると思う。

生活伝承の面について、私達が人間として生存・生活するなかで、社会全体として共有しながら受け継がれてきた生活様式や地域の特性が生み出した固有の習慣・慣習や生活様式、そして生活に根付いた衣食住、生産や風習がある。これは長い歴史にうまれながら伝統という形で受け継がれてきた。

信仰伝承の面について、祭事や神事、伝統芸能や風習、行事などがこれまでの長い歴史の中で特に普遍的に重んじられて、地域文化に根ざし地域社会の生活様式と共に伝承されてきた。

文化伝承とは芸能、民間療法と俗信、口頭伝承 (口承)、方言・民俗語彙を含む。すべてが日常生活の道具として使用され、そして使用価値から美術的価値や工芸品的価値に形を変えてその技法は匠の技として継承・伝承されてきた。

一つの民族として伝承は何よりも重要な地位が占めると思う、古くからの伝統文化には安定性と鮮明的な民族性がある。そのままで伝承し、時代の進歩に合わせて新しい要素と考え方がその中に取り組み、きっと社会文化と経済の発展にメリットがある。そして、我々若い世代には、伝承は一体何だろう、なぜ我々の後世には伝承が必ず重視にするだろう、いったいどういう形で古くからの珍しい宝物をこれから後の人に伝えるだろう、伝統的なものにどういう新しい考え方や要素を注ぎ込むと社会文化と経済に最高のメリットを創出されるだろうなどのことについては、今現在の我々の世代にはよく考える必要があると思う。

2.4. 伝統文化を伝承の必要性

我が中華民族はアジア範囲の政治、経済大国として、この数十年は世界は驚かされるほどのスピードで発展し続けている。その背景には中華文化が深く関することも無視できない。これは国民の生活のいろいろな側面から展示されていて、中国人は独自の文化に力を尽くして研究とともに保護している。グローバル化によって人々は共通の尺度や認識を共有することができる。一方で、グローバル化

によって、文化の画一化が危惧されており、消滅の危機にさらされているものに非物質文化遺産 (無形文化財) がある。それには、生活環境の変化を始め、後継者の育成が難しい、純粋な継承者が生まれにくいなどの事情があげられる。その一方、時代に合わせて変容せねばならないなどの妥協を迫られている。その中で、伝統文化を守っていく必要性がなによりも重要だと考えられる。

1. 文化財は伝統文化の一部分としてますます世界に重視されてきた、今現在世界範囲に結構多くの国が世界遺産登録に申し出して、自国の民族文化などを世界にアピールしていることに取り組んでいる。世界遺産登録によって得られる経済的、商業的メリットが多いため、そのために、中国も自らの伝統文化を見直し、その価値を新たな基準で定め必要があると思う。

2. グローバリゼーションが進展し、経済だけではなく、技術、情報などの交流が益々盛んに行われている中、中国では、経済発展とともに新たな中華文化体系の構築が必要だという認識が強まっている。

3. 近年急激な経済成長と社会変化に追いつかず、特に若者の道徳の欠如、家庭内暴力、離婚の増加などが社会的な問題化しており、人々の心を豊かにし社会的安定を保つために、伝統文化の伝承の必要性を改めて認識する必要があると思う。

4. 無形の伝統文化は、各国、各民族にとって精神文化の象徴であり、同時に人類共通の貴重な財産である。グローバル化の進展に伴い、国際社会において「 文化の多様性」の尊重、認識について活発に議論されているが、特に各民族の文化的アイデンティティの根元をなす無形文化財の保存、振興の重要性が世界的に注目されている。伝統文化は人類の長い歴史の営みの中で自然や風土、社会や生活により形作られ、現在まで守り伝えられてきた歴史の生きた証であり、掛け替えのない貴重な財産である。我々は、この貴重な財産を後世に引き継ぐ責務があると思う。

5. 現在、経済と科学技術の発展に伴って多くの人々はひたすら効率的で、ファッション性の高いものを追い求めており、若者たちは伝統的なものに無関心に

なっている。そのため、伝統文化も徐々に失われている誤解が生じてきた。実は、今日の社会においては，文化そのものが経済活動になっている。特に伝統文化の持つ創造性は経済の発展に欠かせない，製品における伝統的なデザインなど様々な産業において，伝統文化は高い付加価値を生み出す源泉となっている。伝統文化が映像· 音楽産業や余暇関連産業などと結合し、新な形となり、今後更なる成長が期待される。伝統文化はある程度で経済を活性化させ、より質の高い経済社会への転換を促します。経済活動と伝統文化は不可分の関係にあると思う。これらのメリットを持続するために、私たちは、伝統文化の単一形をもっと重視すべきだと考えている。

一つの国家、一つの民族は、伝統文化の良いところを正確的に認識し、悪いところを修正しながら克服するからこそ、もっと強くに成長し、歴史の輪に乗せて前に進めるはずである。中華民族は一種の執着の精神がある。自ら教養を高め、自らイメージアップをする能力は中国が絶えず追及する品質である。伝統文化の伝承中に「かすを取り除き、精華を取り入れる」、絶えずに新しいものを創出し続けると、我が中華民族の魂が永遠に保ち続けられると思う

2.5. 伝統文化による行わってるイベントや番組

近年、「国学」という旗を掲げた伝統文化教育の活動は盛んに行われている。そのなかで、最も影響力が大きいのは、中国中央テレビの科学教育チャンネルの「百家講壇」という番組である。同番組は 2001 年に初めて放送されて以来人気があり、現在は科学教育チャンネルの名番組になった。同番組は文化をめぐって取材範鴎が非常に広く、学理性と権威性を尊重しながら、一般民衆が受け入れやすい内容を取り入れ、奥深い知識をわかりやすい表現で伝えることに工夫しているため、国民に好まれている，そのなかには、閤崇年氏の「清十二帝王疑案」、易中天氏の「易中天品三国」、子丹氏の「子丹〔論語〕心得」、紀連海氏の「正説紀暁嵐」、蒙蔓氏の「武則天」馬未都氏の収蔵シリーズなど、有名な講座がある，上に挙げた人物のうち、易中天氏以外の語り手は全員、北京市の文化学者である「百家講壇」のほか、大きな影響力を持っており、番組や講座は、鳳風テレビ (中国語

版) の「 世紀大講堂」、北京大学の「 世紀大講堂」、国家図書館の国学シリーズなどである。前二者の取材範囲はやや広いが、伝統文化に関する内容が一定の割合を占めている。北京市の重要な文化機構である首都図書館や首都博物館も、これらの後を追うように、相次いで北京の伝統文化 (特に北京文化) の教育に全力を挙げてきた。首都図書館では数年前から郷土文化シリーズ講座が開設され、非常に人気を集めているとりわけ、「 南鋸鼓横丁の沿革及びその地理的特色」、「 戒台寺と五大名松」、「 菜市口周辺の名人旧居」、「 北京の皇室公文書館」、「 京昧曲芸」、「 老北京二十商業広告」、国家非物質文化遺産としての「 北京空竹」、「 妙峰山の廟会」などはいずれも、人々の心に必み込むように学び取られ、北京の文化を浸透させるもとに張· 張:中国の伝統文化をめぐる状況と見解なったのである。首都博物館も所蔵する豊富な文化資源を利用して 2008 年から連続講座を設け、北京文化を通して人々の関心を集めている。 (張妙弟他 2010)

2.6. まとめ

以上でも分かるように、ネットで伝統文化を発展させるのは非常にまだ少ない例である。データによると、現在、我が国のインターネット利用者数は四億人を超え、スマートフォン利用者は七億人以上であり、世界一になる。当世、中国の伝統文化を受け継ぐのにインターネットの「 多い、速い、良い、節約」というメリットと特徴を発揮させることは必須だと言える。ネット利用者が多く、いろんな情報が飛び交い、一つのサイトの情報は千万の図書館の情報の量に匹敵できることを指す。「 速い」とは、インターネットは光線のようなスピードで情報を交換し、図書館で調べるより、インターネットのほうが速くて便利であることを指す。「 良い」とは、資料を探すのは便利であり、キーワードを入力すると、自分のほしい資料がすぐ探せることを指す。「 節約」とは、大量の時間、労力と物資が節約できることを指す。歴史の長い流で、我々の輝かしい知恵や文化の精華などの価値は時間の移り変わりによって失うものではない。新たな時代に直面し、最も時代の需要に合致する「 言語」工具を創るのは必要であり、また、この工具を利用し、優秀な伝統文化を受け継ぐ。インターネットは「 言語」工具の一つである。イン

ターネットは文化宣伝の方式と文化形態の変革を促進し、文化属性の変化を促進詩、文化の多元化とグローバル化の発展を促進し、元社会の文化価値体系に強烈な衝撃を与え、文化伝承と生産方式に深い影響をもたらした。中国文化の豊富な資源をインターネット技術と結び付け、インターネットを優秀な伝統文化の宣伝者にさせる。宣伝によって、さらに多くの人が伝統文化を理解し、好んでもらえるであろう。それに、優れた文芸人材を引き入れ、インターネット文化の傾向の主導力を形成し、伝統文化のインターネット化の発展を推進する。

第3章
研 究 設 計

3.1. 概要

本研究は中国で、漢文化を中心とした統一的な文化教育により、少数民族伝統文化教育が不十分となり、消滅してしまいそうな伝統民族文化の世界を復興し元に戻すことである。現在新疆及ぶ中国で一番若者に使われそして人気されてるネット上で生放送の形で新疆にいるキルギスの若者を対象に、キルギス文化の中で、特に伝統音楽文化の理解と伝統文化を尊重する心を育成し、伝統文化教育番組をインターネット上で継続的に実施して、対象の若者に見せることでキルギス伝統文化に対する興味性の変化を記録し、研究していきたいと思う。

3.2. 番組計画

番組設計

1. キルギス伝統文化
2. 期間 2017 年 6 月 6 日〜6 月 21 日
3. 対象: キルギス 36 名若者(１８ 歳〜２２ 歳)
4. 所: ネット 上(イー生放送)

目標

1. キルギス伝統文化に興味関心をもつ
2. クムズを 感じ 取る
3. クムズ音楽のよさや美しさ, 面白さを 味わって聴く
4. もっと 多く 人にキルギスを 伝えていく、ネット 上でキルギス文化を 宣伝していく

セクション	生放送番組	目標	番組内容	留意点
出会う	1	自らがキルギス民族であることに興味を持たせる キルギス民族伝統? 化を楽しませる	キルギス民族歴史	? 方の民族の美しさを感じさせる
	2		キルギス伝統? 化（楽器、歌? 、? 芸 品を展示紹介）	? タの? 事などを語る
気づく感じ取る	3 4	キルギス民族の伝統楽器の魅力を伝える	キルギス伝統? 楽? 化を鑑賞、共通の話を探し、実際に聞きたいことがあるかどうかを確かめる 演奏者が? 演奏する、楽器クムズの魅? を伝える	私? 活の中で実際に聞きたいかどうかを確かめる
味わる和示する	5	キルギス伝統? 楽? 化と洋? 楽の融合	クムズを弾いて現代の流? 歌を歌う	1．自分で弾いてみたい意欲を付ける 2.初めてキルギス伝統楽器の現代おんがくと合わせた時の? を聴いた時の感想を思い出させ、? ? 変? を確認させる。
	6		初めてキルギス伝統楽器の現代おんがくと合わせた時の? を聴いた時の感想を思い出させ、? ? 変? を確認させる。	

図 3.1: 生放送の計画 3 時間

3.3. メンバー

実践設計の前に、実践に力出してくれたメンバーについて述べる。メンバーは、コンテンツデザイナー、演奏者、出演者、統計と三つのメンバーと新疆にいるキルギス 15 ー 22 歳の若者を研究対象として組んでいる。コンテンツデザインと統計は者と新疆にある芸術団体にいるキルギス芸術演奏者が担当している。演奏者と出演者は新疆地元の唯一のキルギス芸術団体に在籍しており、キルギス楽器教授が楽器演奏をする者など、4 人でこの研究を始めた。者は中国で人気されてる生放送イー生放送サービスを利用し、実際に生放送をしてデータ取り、他の 3 人の協力のもと伝統的な文化を再現し、教授などをしている演奏者のアドバイスなどをもとに若者に人気されてる文化形式を融合し、一般的な伝統文化宣伝とは異なる新たな形式で若者に伝統文化を伝えていく。

3.4. 特徴

以下本研究の特徴として述べる、キルギス伝統的文化というものがなぜこれかというと、筆者は自身がキルギス少数民族出身であり、父がキルギス芸術者であったことや、家族が昔からキルギス文化の中で生活していることなどもあり、家の中の飾り物や、飲食文化、楽器、祭り服装など、すべて小さい頃頃からキルギス伝統家庭に生活してきた。だが、このような現状がキルギス人の中では、普通ではなく、少ないことに気づいた。筆者は、伝統家庭に生活しきたが、本民族の文字を読めない。他の家庭はキルギス特徴をすら感じれなくなってきている。現在、漢文化の中での環境と洋文化の影響の中でキルギス文化知るものが減ってきている。私はキルギス伝統楽器演奏をや、伝統文化に詳しい者を集め、現代若者で人気されてる生放送を利用し、新たな環境の下で、まだできてない、伝統文化を番組を生放送の中でキルギス若者と一緒にもっとも現代に合う伝統文化宣伝方法探しながら、キルギスの若者にキルギス人としての本民族に対しての関心度を高めていきたいと思う。自分で感じれる本民族文化を若者達の交流形式で、一緒に融合しながら、キルギス文化を伝えていきたいと思う。

3.5. まとめ

実践始めの前に、キルギス若者の民族意識が弱いのを気づいてる、外部環境はきびしいが、ネット環境はまだ明らかで、現在の中国では、生放送は人々だけではなく、会社の宣伝、営業、個人メディアとかたくさんのメディアプラットフォームとして、大きいな役割として利用されて来てる、この中でも、生放送からされた文化影響も明らかに見えてきてる、若者にも直接に影響されて来てると見える。なのでこのようなプラットフォームを利用して、伝統文化と生放送を融合して、ただ生放送ではなく、演奏者が伝統文化を伝えてる間と若者が受けてる時に起きた反応、問題、課題と解決方法を探しているのをすごく楽しみにしてた、自分の予想通りと違うどんな激論が出るのも楽しみにした。

第4章
実践と評価

本章ではキルギスの伝統文化のなかの服装、楽器、歴史を紹介そして勉強を目的として、そのなかから、キルギスって昔からどれくらい知ってた、生放送中にどの部分が一番興味あるのか、もっと知りたい他の部分もあるのか、どのような意見と評価あったのかを記録していく。

4.1. アクション

キルギス伝統文化の紹介(服装、楽器、歴史など)

番組の概要

タイトル: キルギス伝統文化とは(2回)
場所: イー生放送
放送時間: 30分 、30分
目的:

1. キルギス民族の存在に伝え
2. キルギス民族伝統文化に関する興味を尋ね

参加者:　観客 36
メインファシリテーター1名(筆者)
キルギス地元アナウンサー1名
翻訳一名

現在のキルギス伝統文化による関心度

第2章の通りに、部分的な家庭は民族文化に対する認識が欠け、伝承の積極性が高くなく、時代の発展は若者問わず年長者にも影響を与え、この時代には主流文化が強調され、親にも主流文化が認可し、家庭教育の機能が弱くなっており、少数民族の文化の後継ぎは制限されている現状である。現在中国一番人気されている生放送アプリで放送してあり番組の形で、受けにくい伝統文化と古い伝統文化を新たな表現方法で若者に展示することである。簡単な方法で遠く距離にいても生活の中で便利の形で見えることである。生放送アプリを通し、キルギス地元の人と正体面にコミュニケーションできるため、今回のキルギス紹介パートは二回に分けて番組けて紹介して行くことである。

生放送後のフィードバックの収集

今回の研究のため、観賞後の感想を収集するため、フォームを作った。以下の形になる。

キルギス伝統文化生放送フィードバック

名前	性別	
年齢	職業	
観賞日付	観賞回数	
興味ある部分	1.キルギス服装 2.キルギス工芸品 3.キルギス民族歴史 4.キルギス楽器 5.キルギス民族の歌舞 6.興味ない	
観賞後の感想		
どこからこの生放送を知りましたか？	1、友人紹介 2、インターネット 3、生放送アプリホームページから 4、お探し	

図 4.1: キリギス民族に関する基本知識

毎回の生放送が終了した後、各参加者にメールでこのフォームを送り、感想と興味を持った部分をアンケート調査した。
観客のキルギス伝統文化に対する知識や番組見た後にキルギス伝統文化に対する変わった所と、どの部分の説明がたりない、生放送を利用すれば生放送番組のなかの伝統文化の部分に興味はどれくらいあるのか、最も興味と受け取れやすい部分はどれかを確かめる。

生放送番組実践

一回目の番組生放送は 2017 年 6 月 6 日 20 時から 20 時 30 分までイー生放送に行われた。具体的な流れとしては以下の通りである。

1. キルギス民族に関する知識の紹介
   (a) 自己紹介
   (b) 道具紹介
2. 質問、コミュニケーションタイム
3. 感想やアドバイス

番組で用いた備品
キルギス服装、工芸品、飲食、ipad2 台、記録用ノート

生放送番組の実行 2

二回目の番組生放送は 2017 年 6 月 8 日 20 時から 20 時 30 分までイー生放送に行われた。具体的な流れとしては以下の通りである。

1. 自己紹介（ 5 分）
2. 道具紹介、展示（ 15 分）
3. 感想やフィードバックやコミュニケーション（ 10 分）

番組で用いた備品

マナスの本、楽器（ クムズ、チョポチョル、オズクムズ）ipad 2 台、記録用ノートなど
この二回の番組生放送のフィードバックから、現在ネット上で、このような伝統文化の宣伝により効果があるのか、それとも、観客の中の若者にどの様な影響を与え、伝統文化により知識と関心度が高めていってるのかを後にデータ分析した上で判断することである。

実行結果・ 評価

生放送番組を 三つのアクションに分け総合 6 回の生放送で、36 名のキルギス族の若者 (18 歳-24 歳) に番組を 見てもらい、フィード バックフォームの形で情報を収集し、データ分析を 行った。フィード バックデータを 分析してもらった情報から、若者たちが伝統文化に興味ある 部分を 明らかにし、それを 合わせ次回のアクションと 宣伝方法を 提案することである。各アクションの実行結果は以下の通りである。

一回目生放送番組

生放送でキリ ギス民族と 知ってるだろう

自己紹介やキルギスのことについて話し 始め、キルギス民族伝統文化について話し 合う。生放送中の観客たちのコメント から、キルギス民族を 知っているかどうかということを 確かめる。実施する 際に、観客たちが積極的にコメントしてくれ、ポジティブな 態度を 示した。生放送番組実施後、各観客にフォームをメールで送り、キルギス民族のこと、興味あるかどうかに対する 関心度が明らかになった。

図 4.2: キリ ギスに対する 知識と 関心

4.2 図により、キルギス若者たちがキルギス民族基本知識を 知っている 人は多め、キルギス民族に強い興味が持っていることが分かる。

キルギス民族服装、工芸品と食品の展示と紹介

キルギスの伝統的な服装と工芸品とキルギスの食品（ジュップカ）を展示して、食べ物の作り方と味を伝え、キルギスの日常的な物、服装と工芸品の上の花や動物などの図のストーリーと代表し意味、あと生地から作り方まで色々を観客に見せながら説明。お祭りでどんな服を着るのかも説明して、このパートはキルギスの伝統服装と手作りの工芸品を中心として説明して行く。

服装と工芸品を紹介のあと、観客からコメントをもらうことでこの話題に興味があることをわかる。

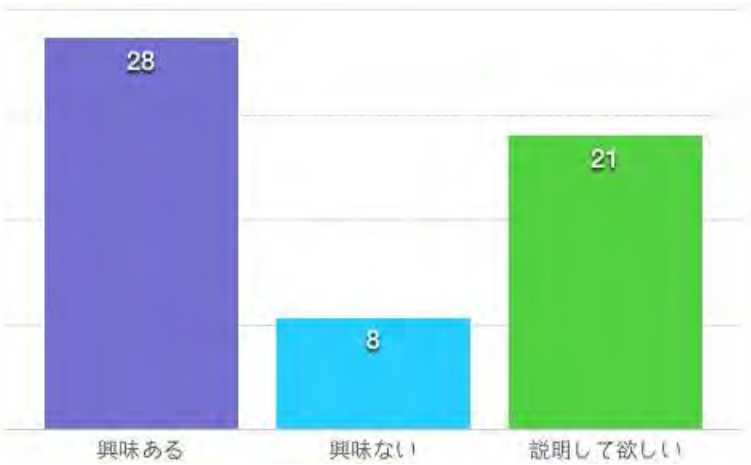

図 4.3: キリギス民族に関する基本知識

4.3の図から見えるデータからキルギス伝統服装と工芸品に興味がある人は興味ない人より大勢いるとわかり、もっと聞きたい人もいることを分かった。

ディスカッション

一回目の最後、このパートでは、以上に紹介、展示した内容について観客から自分の今回のキルギス伝統服装と工芸品にある違う意見とアドバイスを聞き、自分のキルギス伝統服装と工芸品について知っている、そして今回の生放送番組中に説明されてなかったところを討論し始める。アナウンサーが質問を答え、筆者

もコメント欄で文字で質問を答え、このようなオンライン生放送番組興味深いことを観察した。

二回目生放送番組

キルギス歴史マナスの紹介

どうして歴史と伝統楽器を一緒に説明し、まず第一部分でキルギスを代表するマナスという、歌の表現方法がわかる叙事歴史である。このパートでキルギスの有名な芸術家を誘って、5分間の歌ってもらい、翻訳者があとに翻訳説を入れ、キルギスのヒーロー歴史マナスについて説明する。ここでコメント率からもヒットしていることを発見した。

芸術家側からとして、このような演奏は始めてで、このような形でキルギス伝統文化の宣伝方法を見つけ、まだ予定より多くの知識を教えた。

観客からこのような伝統文化を聞こえる、古い話についても全然知らないが興味あることを分かった。こ

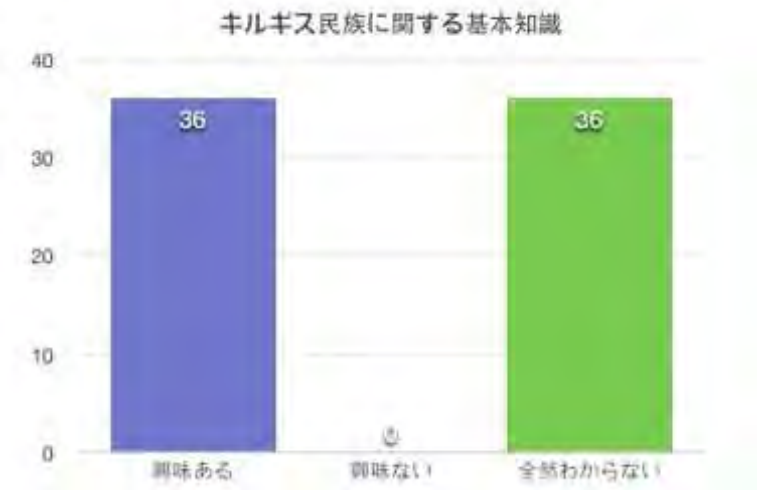

図 4.4: キリギス民族に関する基本知識 (2)

4.4の図により、自分が全然しらないことに興味を持つことがわかり、しかししらないことを長時間の生放送するのも番組にとして収率があぶないことと気づい

た、簡単な説明のあと次のパートに進め、観客に自己感想スペースをあげると考えてもこのパートの一つの設計である。

伝統楽器の紹介

キルギスの伝統楽器の中に最もシンボルな楽器を三つ紹介して行く（ クムズ、オズクムズ、チョポチョル）。このパートに、説明する前に観客からこの三つの楽器に対してどれくらい知識があるか、コメント率から分析できた。

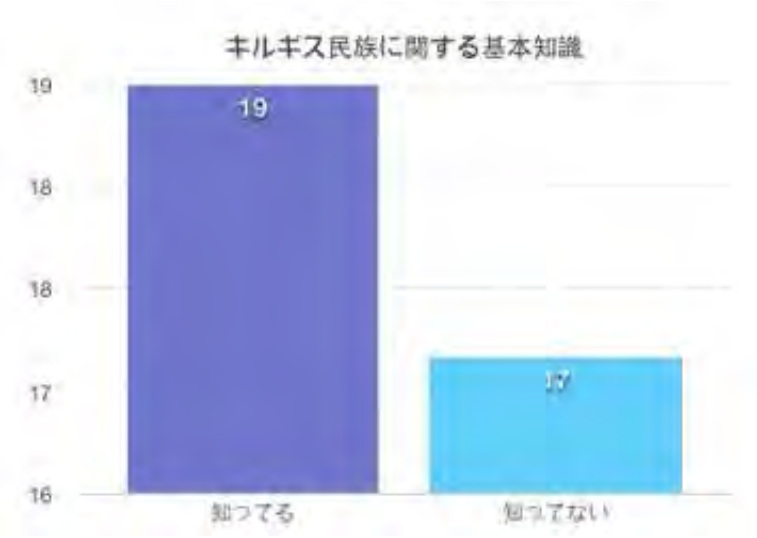

図 4.5: キリギス民族に関する基本知識 (3)

4.5 の図から差が大きい差が結果で見えた、キルギスとして伝統楽器をしらない人が半分ぐらいとなっており、洋楽器の認識に比べて差が大きいのをわかった。

ディスカッション

第一回目の伝統服装、工芸品、飲食と二回目の歴史マナスと伝統楽器の紹介展示を一緒にして、基本的なキルギスについて文化の中の話をした。観客たち見たあとの感想についての聞き取り調査を実施した。結果をまとめると、以下のことを分かるようになった。

この番組は普通のように硬い表現形で伝統文化を見るだけではなく、目の前楽な環境で自分の伝統文化を見て、もっと鮮やかに生活に近い距離で感じてある。

この前にテレビやイベントがあっても見る気がしなかったが、若者が使うアプリで自分の民族の伝統文化を見えるなんてかっこいい。このような短くて、本当の歴史を触れるものであれば是非見る。

ポジティブな点

1. この生放送番組は３０分で、視聴者にとって簡単に歴史学ぶことができ、繰り返していつでも見ることができる。
2. 演奏者として、このような伝統文化を伝える場所があって、自信を持ってもっと教えたいと伝承に力を出したい気持ちが上がる。
3. ネットがある環境だけでお金をかからずに伝統文化を勉強できる。

アクション 1 からアクション 2 への反映

アクション1 の実施により、キルギス本民族であっても、自分の民族に対してあんまりしらないことが多くあることをわかった。以上のアクションで一番テンション上がった部分歌マナスと楽器について、どうすればもっとアクティブに参加してもらい、わからない内容を聞く問題点を解決方法を明らかにすることで目的として改善すべきると思う。
改善点

1. 歌と楽器に興味があるが、今の流行と違っていること。
2. 観客とのコミュニケーションパートも必要であり、インタラクションを高める。

4.2. アクション 2

キリギス伝統音楽

番組の概要

タイトル: キルギス伝統音楽文化の美しさ(2 回)
場所: イー生放送
放送時間: 30 分 、30 分
目的:

1. キルギス民族の伝統楽器の魅力を伝える
2. キルギス民族伝統楽器文化に関する興味を尋ね
3. 興味、関心度を高まる
4. 独自のよさや美しさ、面白さを感じ取る

参加者:　観客 36
メインファシリテーター１名(筆者)
キルギス地元アナウンサー１名
翻訳一名

今回、番組を設計するにあたって2 つのパート構成されている。

1. 前回の番組の中心と違って、今回の番組はキルギス民族の伝統的な音楽文化のよさに気づき、尊重しようとする態度を育成する観点から、キルギス伝統楽器などを活用した演奏や鑑賞の生放送を通して、キルギス民族の音楽にインタラクションできるような活動を行わっていく。

2. 生放送後のフィードバックの収集
統的な音楽についてどう変わったのかをコメント率と生放送後の調査結果をまとめ。この番組を見てから、伝統的な音楽についてどう変わったのか、オンライン番組を通じて自分の文化について自発的に考えていく気持ちをできたのかを確かめる。

生放送番組実践

三回目は 2017 年 6 月 14 日の 20 時から 20 時 30 分までにイー生放送で行われた、具体的な流れとしては以下の通りである

1. キルギス伝統音楽の従来説明

2. キルギス伝統音楽文化を鑑賞

3. 感想やフィードバック

生放送で用いた備品

クムズ、ipad 二台、ビデオ用テレビ、記録用ノート

キルギス伝統文化において、知っていたことはどれくらいあるだろう。鑑賞から自分の民族の伝統音楽文化による認識はどう変わるのか、キルギスに伝統音楽に対する関心度をどう変わっていったのかを観察していく。

四回目は 2017 年 6 月 17 日 20 時から 20 時 30 分までにイー生放送で行われた、具体的な流れとしては以下の通りである

1. キルギスの楽器のメロディーを教える
2. キルギス伝統音楽を生放送番組で生演する
3. 感想やフィードバック

すべての音楽はそれを生みだした様々な風土、歴史、文化、伝統などに根ざして存在している。そのために音楽も多様なものとなっているのである。この多様さは、音楽の諸要素と仕組みの違いとなって表れる。このパートでは、自分の民族の伝統的な音楽を聴いた感後に、勉強したいのか、伝承のために自分の民族の伝統文化についてどんな努力をしたいのかを番組の後の調査から分析と考察していく。

実行結果、評価

番組を生放送した後に、３６名の観客の感想をもらった結果、観察された各項目について集計を行った。ここで 得られた改善点は、考察と合わせて次回の生放送番組や提案に 反映した。各パートの実行結果は以下の通りである。今回のパートで以下のフィードバックを観客にメールで送って質問調査した

三回生放送番組

1. キルギス伝統楽器の従来とビデオ鑑賞
   地元の芸術者や筆者の家が収蔵した重な写真とビデオを用意して、生放送中観客に見せることであり、アナウンサーが音楽ビデオを詳しく説明していくことである、このパートの中心は、観客達に自分の民族の楽器の音を聞かせ、ビデオを通じてキルギス音楽の特性は洋樂文化と全然違う音色を伝

え、鑑賞の後に以下のフィドバッグフォームを観客にメールで送ってフィードバックをもらった。

2. キルギス伝統音楽文化を鑑賞後の調査結果
生放送番組中のコメント率を見ながら、感想フィードバックについて観客たちに質問をしており、この質問について観客たちからもらった結果は以下である。

▲ 長くて退屈な音楽，聴いていたら眠くなる。
▲ 古くさい。年寄りがやっているもの。遅すぎる。
▲ かたぐるしい。のってこない。古くさい。
▲ 普通に楽しむ音楽とは関係なく，何か大切な時しか流れないので，親しみをもてない。
○ しぶい。不思議な音楽。
○ キルギスの文化という感じはするが，余りにも親しむ機会が少ないので，興味のある人や，伝承している人だけがやる，というイメージ。
◎祭りにはキルギスらしくていいかも知れない。
◎ (肯定的◎ どちらともいえない○ 否定的▲)

図 4.6: キリギス楽器のアンケート

4.6 の図に示すとおり、観客たちはキルギスの伝統音楽について、肯定的にとらえていないことが分かった。具体的には、『長すぎる、古くさい、テンポにテンションが上がらない』といったイメージを持っており、よさを理解できてないことが分かった。これらのことから、キルギス伝統楽器を取り入れ、音楽の諸要素に対する感受性を高めることを通して、キルギスの伝統楽器のよさや美しさ、面白さを感じ取らせる指導の工夫が必要であると考える。

イメージ図から、最も分かったことは、若者が伝統音楽に対する審美は否定的で、今の洋楽器の比べてあんまり興味をもてない状態である。このような結果の原因も以下の二点でからわかると思う。

1. 楽器の演奏方法単一で、豊かな表現方法ではなく、若者と共鳴がない、現在の若者が聴く音楽風格と全く違う。

2. 演奏者に対するイメージが古い、このような伝統音楽は年上の芸術者が演奏しており、演奏をされている場所も祭りやテレビで古い番組にて放送されていると思われている。

四回生放送番組

1. 演奏者が生演奏する

   地元の演奏者がキルギスの最も代表的に伝統楽器クムズを紹介し、キルギスの伝統的な音楽と最近作られた歌を演出しており、このパートで観客たちに正体面でキルギス演奏者の演出を見ることができる。

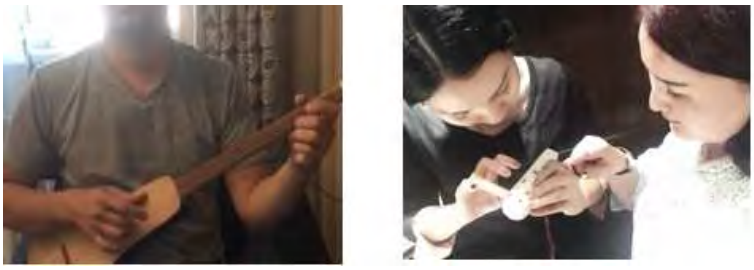

図 4.7: キリギス楽器

2. 観客たちから聞いたことあるキルギスの歌を聴く

   観客たちから知っているキルギス歌があればコメントしてもらい、演奏者がクムズで演奏仕上げ、二回目で出た改善点を改善していた、このパートのインタラクションが高めて、コメント欄にもドンドン質問してもらった。

4.8の図の通りに、やはり自分が聞きたい歌や音楽であれば、みんなはテンションが高め、どんどん自らすすんでキルギス伝統楽器に対して考えたり、アドバイスもしてくれたり、３６人みんながコメントしてきた。単に紹介や見せてもらうと若者との共通言が足りないことも分かった。

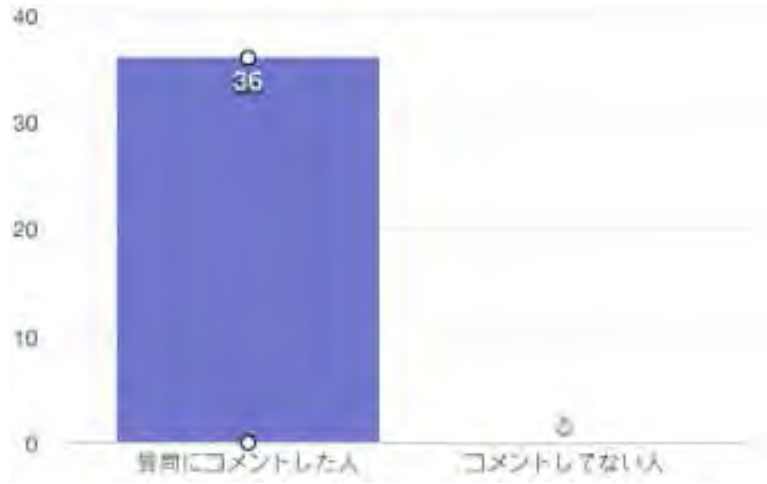

図 4.8: キリギス楽器を聞きたい

今回の生放送番組に対して、評価する項目は以下である

1. 観客のコメント見て分析して、どんな音楽や歌が観客に興味がある、観客の好きな音楽と歌を合わせてキルギス伝統楽器を演奏する。それを演奏して、観客ともっと繋がる。若者だちがキリギス伝統音楽に対する興味がどんどん上がるのことで発見した。

2. 四回目の生放送のインタラクション率を通じて、伝統音楽を現代音楽や若者に合わせるとする間に、現代の生放送を利用して番組する事だけのチャレンジだけではなく、演奏者側からも新しい演奏方法であるチャレンジ。

改善点

1. 番組の内容として、演奏とコミュニケーションの時間のスケジュールをちゃんと設計して、演奏と説明をよく伝えていく。

2. 現代文化と融合する必要がある、じゃなければ、繰り返しやすくて古い文化はそのままもう一回忘れるおそれがあることを気づいた。

アクション 2 からアクション 3 への反映

今回のアクションでは、この番組の中心『 キルギス伝統楽器の伝承』を中心して、従来説明からビデオ鑑賞、演奏者が生演奏と観客たちとの音楽コミュニケーション子の四点について生放送番組を行われた、今回は若者がキルギス伝統音楽に対する、興味無い古いと観点を発見し、しかし、若者と関係がある音楽であれば、キルギス伝統楽器でも興味を高めると発見した、この発見を重視して次のアクションでキルギス伝統楽器を現代の表現方法で現代の歌を歌い、先行研究の中の成功事例の三味線を参考して、アクション 3 の生放送番組で反応していく。

4.3. アクション 3

キリギス伝統楽器と現代音楽の融合

番組の概要

タイトル: キルギス伝統音楽文化と洋音楽の融合(2 回)
場所: イー生放送
放送時間: 30 分 、30 分
目的:

1. 若者との音楽に対する共鳴を発見する。
2. 自らすすんで鑑賞したり表現したり、しょうとする
3. 伝統音楽文化に対する尊重と伝承して行きたい心を育成する

参加者:　観客 36
メインファシリテーター 1 名(筆者)
キルギス地元アナウンサー 1 名
翻訳一名

生放送で用いた備品

クムズ、ipad 二台、ビデオ用テレビ、記録用ノート

今回、番組を設計するにあたって2 つのパート構成されている。

1. 前回の内容について、今回の生放送番組で続けて伝統音楽を伝え、現代音楽と融合し、若者と共鳴を深め、若者が伝統音楽文化に対する尊重と伝承して行きたい心を育成する。番組後のフィドバッグ調査から結果を分析していく。

2. 生放送後のフィードバックの収集
   アクション後に質問のメールで観客達に以下の質問を送っているフィドバッグをもらうことである、そしてこの六回の生放送から変わった考えと、このキルギス伝統文化生放送番組について意見と、続けてみる興味があるのかがわかる。

1. キルギス伝統楽器を演奏してみたいですか。
2. 伝統楽器と現代音楽の合わせることは正しいと思いますか。
3. 本番組を通じ自分の民族の文化に対する興味を高めましたか。
4. キルギス伝統文化生放送番組を続けて欲しいですか。
5. これから自分でキルギス文化について観察したり体験をしたりしたいと思いますか。
6. 生放送の長さんは足りますか。生放送の放送時間がそのままでいいですか。

五回目 2017 年 6 月 21 日 20 時から 20 時 30 分までにイー生放送で行われた、具体的な流れとしては以下の通りである。

1. 若者が人気されている曲をキルギス伝統楽器で演奏する
2. キルギス伝統楽器と洋音楽の音に合わせて演奏
3. コメント率を分析する

生放送で用いた備品：クムズ、ipad 二台、ビデオ用テレビ、記録用ノート

若者に合わせ、事前に準備しておいた，現在若者に人気されている曲を練習しておき、生放送中にクムズを伴奏して歌を唄い、観客に興味示しているのかを観察していく。

六回目 2017 年 6 月の 24 日 20 時から 20 時 30 分までにイー生放送番組で行われた。具体的な流れとしては以下の通りである。

1. 現代洋樂を背景として流れ、クムズを弾き、新しい音色で新しい曲を一つ流す。
2. コミュニケーション、フィードバック

実行結果、評価

今回のアクションは最も大切で、このキルギス伝統民族の中の伝統音楽の宣伝と伝承について、現代の生放送の形で、舞台をネットにおき、伝統という、古いイメージのある文化の間違い思いをどうすれば変えられるのか、消えそうな文化は美術館だけではなく若者人々の生活でも見やすい、共鳴が起きる一つの表現と考えた上でこのような考えが思い出し、実施してきた。今回の融合から観客にどのような考えが出るのかを確認し、各パートの実行結果は以下の通り。

五回生放送番組

キルギス伝統楽器の中の『クムズ』を使って現在流行曲を三つ選んでいる、演奏準備しておいた曲を生放送中に一つを演奏することである。

事前準備

アクション 3 は前の二つのアクションに違って、生放送前に曲を選ぶことと選んだ曲を練習の必要がある。

曲の準備: 曲は、国内に一番ダウンロードされてる QQ と言う音楽アプリケーションから、最新の人気されている曲を三つを選んだ。

一回目の生放送番組が３０分しかないので、今回の番組の中心とした現在流行している曲を三つを準備して、生放送中の観客が好きな曲を選んでもらい、その中の一つ曲をキルギス伝統楽器クムズを背景伴奏し、歌を歌った、このパートでは

キルギス伝統楽器を背景した現代の歌はどの様に流れるかを観客に聞いてもらった。このパートの曲を選ぶとき以下の問題点を発見した。

1. 曲の準備が足りず、観客が好む選曲が少なかった。
2. 観客たちが楽器の音が単一を感じた。

一つ伝統楽器を背景して演奏することは、キルギス歴史として普通だが、現在の流行されている曲を演奏仕上げの中で、音が単一を感じ、観客に選んでもらった曲はみんなの頭の中で本来の曲と比べられ、新しく感じとれたとは思うが、オリジナルで良いとのフィードバックが目立った。

演奏者からの意見

聞いている観客のフィドバッグだけではなく、演奏者としてのプローな評価を聞き取り、伝統楽器で現代流行曲を演奏するとどんな意見があるのと、いくつの意見を聞き取った。

1. 単に曲として面白くて、曲に違うイメージを入れるが、楽器として特有な音質をなくす。
2. クムズとしての特徴であるが、他のタイプの曲にクムズとしての三つの弦だけで限りがある。
3. 融合とは言えない感じする。

演奏者からの詳しく説明により、融合というのは、例えばクムズと言う一つの楽器と他の楽器を融合して一つの新しい曲や、一つの曲を弾く、音を流すことであるともっと楽器の美しさを感じとれると分かった。

観客からのフィードバックから以下の発見をまとめた。4.9の図により、このような新しい演奏方法を見て観客から、いい意見も否定的な意見もあったが、キルギスに対する最初から何もわからないと言うイメージから意見を出して、アイディアを考え、積極的な発言ができたのを発見した。

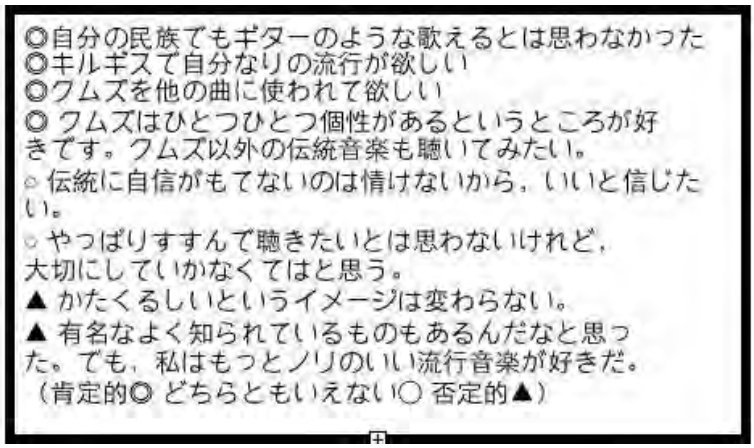
◎自分の民族でもギターのような歌えるとは思わなかった
◎キルギスで自分なりの流行が欲しい
◎クムズを他の曲に使われて欲しい
◎ クムズはひとつひとつ個性があるというところが好きです。クムズ以外の伝統音楽も聴いてみたい。
○ 伝統に自信がもてないのは情けないから，いいと信じたい。
○ やっぱりすすんで聴きたいとは思わないけれど，大切にしていかなくてはと思う。
▲ かたくるしいというイメージは変わらない。
▲ 有名なよく知られているものもあるんだなと思った。でも，私はもっとノリのいい流行音楽が好きだ。
（肯定的◎ どちらともいえない○ 否定的▲）

図 4.9: 演奏者からの意見

六回生放送番組

前回の番組中に行われた問題点を解決し、続けてキルギス伝統楽器『クムズ』を使って、前回と違って、背景伴奏ではなく、一つの曲に合わせ、クムズを入れた曲をみんなに聞かせ、そして反応をかんさしたうえで、分析していく。

今回もこの三つのセッション（ 六回生放送番組）で収集したフィドバッグ、アンケートにより結果をまとめていく。

事前準備

五回目と同じなように、設備以外事前に曲を選び、演奏者が練習しておく。

1. 融合演奏

   前回の問題点、融合してないから解決して演奏すること、今回は一つの曲を伴奏して流れ、中に音色としてクムズを弾いていく、クムズの音を一つの旋律として観客に聞いてもらった。ここからコメント率を観察して、フィードバックからこのような反応を発見した、具体的なイメージまとめは以下である。

   4.10 の図により、伴奏ではなく、一つの曲に合わせ、一つの新しい音を入れれば、もっと楽器の美しさを聞き取れ、受けやすいと分かった。

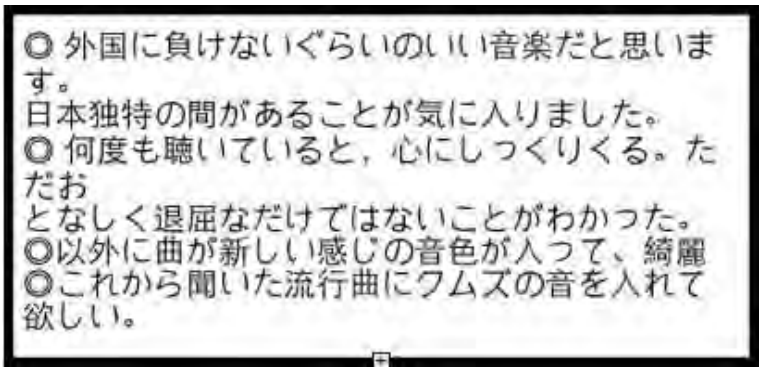
◎ 外国に負けないぐらいのいい音楽だと思います。
日本独特の間があることが気に入りました。
◎ 何度も聴いていると，心にしっくりくる。ただお
となしく退屈なだけではないことがわかった。
◎以外に曲が新しい感じの音色が入って、綺麗
◎これから聞いた流行曲にクムズの音を入れて欲しい。

図 4.10: 融合演奏

2. 六回目キルギス伝統文化生放送番組の復習
   六回目のキルギス生放送番組の内容ついて一回まとめて今まで工夫したところを観客に伝える、もう一回観客にこの番組を見る前と今まで変わったところを思い出してもらう。

3. キルギスに対する認識と自分でこれからどのようなキルギス伝統楽器の演奏や、キルギスに対するどのような内容をこの生放送番組で見たいのかをフィードバックしてもらう為に以下のフォームを観客に送った。

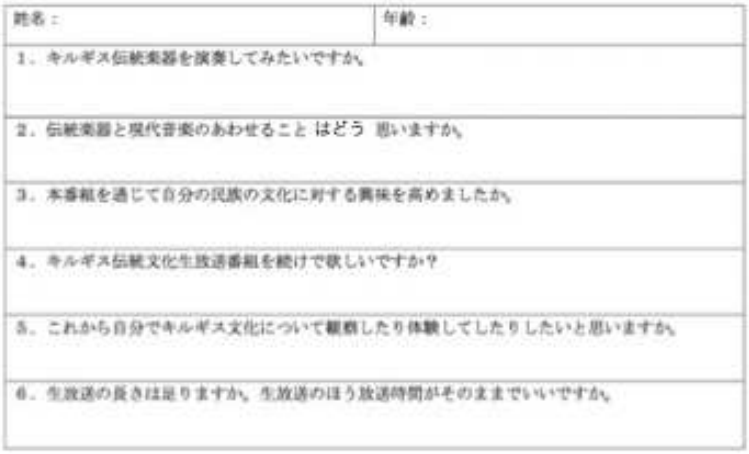
姓名：	年齢：
1．キルギス伝統楽器を演奏してみたいですか。	
2．伝統楽器と現代音楽のあわせること はどう 思いますか。	
3．本番組を通じて自分の民族の文化に対する興味を高めましたか。	
4．キルギス伝統文化生放送番組を続けて欲しいですか？	
5．これから自分でキルギス文化について観察したり体験してしたりしたいと思いますか。	
6．生放送の長さは足りますか。生放送のほう放送時間がそのままでいいですか。	

図 4.11: 放送番組後で見たいフィドバッグ

第5章
結論と今後の展望

5.1. 本研究の成果

研究成果

一連の研究によると、民族の伝統文化を受け継ぐことにおいて、いろんな問題が存在していると分かった。

全体的に漢語で教育を行う背景において、学校の授業で教師も学生も漢語で交流し、しかも授業から教えてもらったのはすべて漢族の歴史と文化であり、少数民族に関する歴史や少数民族の祖先は如何に支配されるのもほとんど教えてくれない。主に漢族の立場に立って歴史を述べる。それに、教えてもらった礼儀も少数民族の礼儀ではなく、漢族のである。したがって、少数民族はだんだん自分の特色を失ってきたとも言える。

現在、世界で文化物品の流通と交換にバランスが崩れる現象が存在し、こういう現象は文化の多様性を脅かしていると考えられる。近年、国家は少数民族の伝統文化に対する保護措置を多くとったが、良い効果が表れなく、民族伝統文化の流失、さらには破壊された現象さえも徹底的に改善されていない。一方、少数民族の伝統文化は普遍化も生活化もできないので、広く普及させるのは難しい。

21世紀がやってくる際、現代化は全国いたるところまで浸み込んだ。辺鄙な地方に集まる少数民族も同様に現代化がもたらす便利を楽しんでいて、人々の生活水準は以前よりかなり良くなった。しかし、グローバル化の推進と主流文化の強烈な衝撃によって、民族文化は無視され、ますます非主流化になってくる。少数民族文化は主流文化の衝撃の下に、衰退する傾向にある。現代化の主流社会の発展に適応するために、主題民族に融合し始める少数民族があるそうである。この

過程において、少数民族の伝統文化はだんだん主流文化に取って代わる現象が現れた。

通常、年の若い人は新たな物事を追い求めることに熱中し、民族の伝統知識及び祖先から受け継いだ暮らし方はすでに時代遅れになったと思っている。このような社会雰囲気で、多くの伝統的なやり方は文化の宣伝する過程、あるいは広がる過程に失ってしまった。今では、自分の民族の代表的な服装は何かさえ分からない少数民族の人もいる。すでに少数民族の伝統的な服装を着ない少数民族の村はたくさんあり、ただ辺鄙な村に住んでいる人だけは着る。雲南の山の奥深いところに、ブーラン族とトーアン族の若者は民族の方言を使わなく、彼らはこの奥山から抜け出し、大都会に行って働き、お金をたくさん儲け、百年以来変わらない伝統な生活を変えさせてほしい。奥山から抜け出してから二度と帰る若者は少なくない。

5.1.1 実践の成果

六回の生放送番組から収集したコメント率、フィードバック、アンケート収集した３６名の観客の変化を観察し、キルギス伝統文化により認識が大きく変わったのかをまとめていく。

1. 以下の六回目の生放送番組からキルギス伝統文化に対するイメージの変わり、そしてキルギスの伝統音楽に対する興味、関心、参加してみたいかについて図5.1、5.2、5.3に示すとおり、事前と事後のデータである。

図 5.1: 伝統民族楽器に興味あります

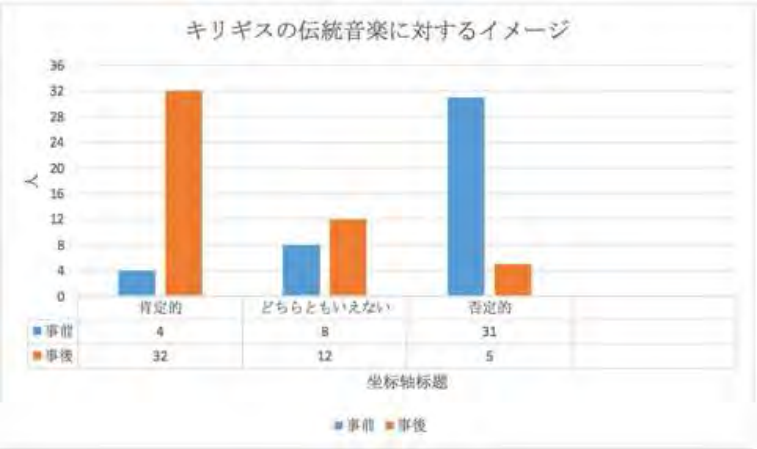

図 5.2: キリギス伝統音楽に対するイメージ

図5.1，図5.2に示すとおり，事後では80％以上の観客がキルギスの伝統音楽に対して肯定的なイメージをもち，興味関心がある観客は12％から80％以上に増えた。

2. キルギス伝統民族楽器を弾いてみたいと思います

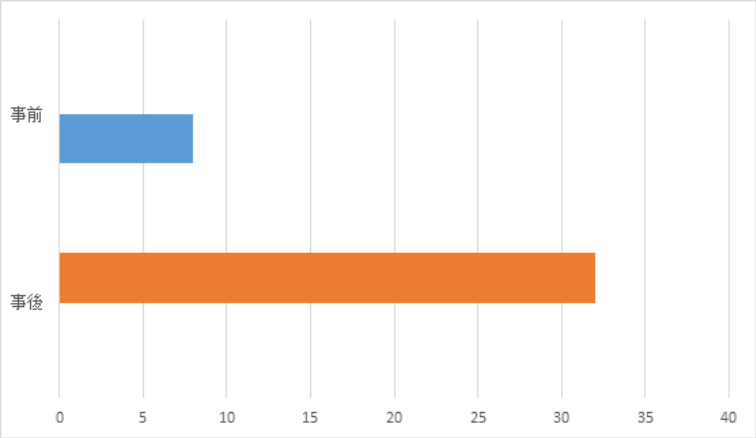

図 5.3: キリギス伝統民族音楽を弾いてみたいと思います

5.3の図に示すとおり，キルギス楽器に対する意欲も高まった。

まとめ

以上3 つの視点から，観客はキルギス伝統楽を味わい，生放送番組をすることを通して，キルギスの伝統音楽のよさや美しさ，面白さを感じ取り，親しみをもつことができたといえる。そして、キルギス音楽や楽器を生放送の形で演奏したりしてみせてもらうことで，興味関心が高まり，意欲的に演奏することができた。

5.2. 課題と今後の展望

インターネット時代に入ってから、伝統的な経済は大きな衝撃を受け続け、斬新な職種が勢いよく現れ、人たちは新たなやり方や新たな生活経験に夢中になるが、製品や方式などの交代が速すぎるので、結局この時代にしっかりと残され、

しかも時代の潮流を導くものは少ない。インターネット生放送は少ないものでの一つである。それに、大きな潜在力がある。

新興のインターネット文化としての生放送は潜在力が非常に大きい。その一つの原因は、インターネット生放送は文化として90年代や00年代生まれに認められた。彼らこそは、今の社会の中流の砥柱になり、将来の何十年の発展を推進する中堅的な勢力になる。私は生放送を通じ、民族伝統文化を若者に伝え、さらに多くの人に伝統文化の良いところを見せた。それに、私の生放送は大きな反響を呼んだ。

近年、市場経済の急速な発展や国民の生活水準の向上につれて、わりに優れた物質の基礎の上に、意識領域における各種類の芸術形式も関心を集めた。

また、現代音楽の題材、内容はともかく、メロディーからみれば、現代音楽には大衆に認められ、なかなか親しみがを感じる民族民間音楽言語や、通俗的で分かりやすく、言語に近いは声もよく情調もたっぷりの歌や、感情をぶちまけるような音調と生き生きとして特徴を持つリズムや、大衆の世俗な音楽に対する審美意識に近いなどの特徴を持つ。民族音楽と現代音楽の効果的な結合は、民族音楽の宣伝に有利だけではなく、現代音楽が健全に発展することにも役立つと考えられる。

私は生放送において、少数民族楽器と現代歌曲の結合を通じて、完璧に伝統文化を現代生活に入れた。インターネットに関するいろんな手段を利用し、簡単で分かりやすい形式によって少数民族の特色をさらに多くの人の目の前に現わせ、彼らにも民族伝統文化の魅力を楽しませてほしい。

私の生放送がこれほど広く認められたことは、このような生放送には存在する意味があるのを証明した。それゆえ、この生放送をやり続けたいと思い、更に多い人に伝統文化を理解させる。しかもさらにはるかに遠いところに伝えることは今の私の最高の理想である。そのほか、ホームページを作成し、詳しく伝統民族楽器を紹介し、それに伝統楽器で演奏するビデオをたくさんアップロードし、伝統楽器に特有の濃厚な民族特色の音を味わわせ、気に入らせる。海外の友人が私のホームページを訪問されることを歓迎する。ホームページにそれぞれの民族の特色の楽器をお互いに紹介することを期待している。インターネットを通じて、

世界で各地の楽器の良い点を受け入れ、斬新な音が出せるように追い求め、伝統楽器を受け継いて提唱し盛んにする。

参 考 文 献

居素普瑪瑪依 (2004)『 中國柯爾克孜族英雄史詩瑪納斯』，新疆人民出版社.

将美林 (1999)『 浅談伝統音楽和現代演奏形式的融合』，中央民族大学音楽学院.

蘇紅, 滕星 (1997)『 多元化社会与多元一体化教育』，民族教育研究.

張妙弟, 張帆, 張周 (2010)「 中国の伝統文化をめぐる状況と見解：日本「 伝承文化と生涯学習」研究会との交流から」,『 北京市における近年の伝統文化教育と研究活動』，第 7-9 号.

馮驥才 (2007)『 文化遺産日的意義』，新華文摘.

付　　録

A．生放送台本の流れ

柯尔克孜传统民族文化宣传网络直播节目

《即将消失的传统民族文化，柯尔克孜》

节目台本框架

Production Plan /节目制播：

直播时间：6月6日
直播地点：1直播
节目主播：翻译一名，zinat
节目嘉宾：36名观看者，途中观众

▲ Moderator Script /节目脚本

固定用词：

A：确定节目概念：主持人和观众之间是传统文化诉说的概念，突出介绍家乡传统文化，以拉近和观众的距离。

B：翻译称主持人为zinat为"zinatje"（以树立一种仪式感的形象）

C：确定每一个环节的时间，充分紧凑利用每个环节。

D：翻译保持自己在旁边的仪态，需要以学习的态度一起聆听给予主持回应。

E：确保准备的道具不能提前出现在屏幕当中

1. 直播主持人开场自我介绍至确定人数（5分钟）
主持人：（柯尔克孜语）大家好，我是zinat，确定一下人数，来的人请发送1
翻译：翻译以上
主持人：zinat 是和平的意思，（翻译）那我的家乡呢是在克孜勒苏柯尔克孜自治州，有来自这里的柯尔克孜朋友请发1（翻译）跟大家说一下柯尔克孜族绝大部分牧民至今仍使用柯尔克孜语言。几百年来，因内陆居民的迁入以及各地语言的混杂，该民族的语言和文字逐步退化，而流传下来的，就是一些和该民族的生活息息相关的非物质文化遗产。我会在接下来的时间里给大家简单的介绍一下本民族的服装以及饮食等（翻译）

2. 确定好人数后，主持人开始进入家乡介绍和让大家回忆家乡环节。围绕以下内容展开直播和互动（5分钟）
主持人：刚刚有，，来自克孜勒苏这个地方那个地方为老家的人，那我们知道自己每个家乡的地名的来源吗？在这之前我想问一下大家知道柯尔克孜是什么意思吗？知道的留言给我看看。（翻译）柯尔克孜有誉为四十个女子和红河的意思。那我们每个人的名字也不同于汉族的地方是，我们大多以比喻的方式取名字（翻译）比如除了刚刚介绍我的名字以外的名字：ayisulu，一时就是比喻你像月亮一样美丽，像我们观众其中一个人叫：ayitunuke，意思就是像月亮一样干净透彻。（翻译）而男生的名字则多是取自英雄，或者传承，比如wulanbeke，是传承的意思，还有manasi，那就是大家都知道的英雄人物了。所以可以从名字看出来，柯尔克孜是男人负责保家，女人比较温柔，负责家庭生活。而柯尔克孜人居住的地方大多是大自然，花，草原，天空。所以也可以稍微看出游牧民族的取名来由（翻译）接下来大家可以发一下自己不知道意思的名字，我在这边为大家翻译解释。

3. 开始进入服装工艺品介绍环节（10分钟）固定围绕以下内容进行介绍和互动
主持人：先给大家看一下传统的服装，有穿过的人或者说家里有传统服装的人你们可以按下1我看一下。我觉得自己民族的服装大家还是很有必要准备一套在家里的（翻译）像我们柯尔克孜的服装也好像工艺品也好都是我们手工制品，每个花纹每个走线都是先用干燥的肥皂画在干净的布上面确定走线的路线，再用针线去完成。（翻译）其实还有很古老的木试织布机（这里翻译需要把事先准备的图片给大家看）但是现在能用的人和机器都已经是非常罕见了。（翻译）以前家里的地毯，壁挂毯等等都是家里的妇女亲手进行缝制的（翻译）
使用图片：

4.介绍饮食，围绕以下的饮食进行展开话题（5－8分钟）
主持人：准备好的酸奶，手抓羊肉
柯尔克孜一日三餐，除早餐为馕和茶或奶茶外，中餐和晚餐多以面食、马、牛、羊肉为主;在农区以粮为主食，但肉类仍占有很大比重。日常蔬菜不多，品种不少，仅洋芋、圆白菜、洋葱较为常见，并且很少与肉类一起成菜。很多肉类以做成手抓羊肉、烤肉(塔西哈拉克)为主。其次大都做成独具特色的灌肺、灌肠、油炒肉、肉汤等。奶和奶制品在柯尔克孜族日常生活中占有很重要的位置，最常见的有马奶、牛奶和奶皮、奶油、酸奶(浓、稀酸奶)等。平时喜用青稞、麦子或糜子发酵制成的一种名牙尔玛的饮料饮用，柯尔克孜族好饮茯茶，煮沸后加奶和食盐。柯尔克孜族早餐较简单，但营养丰富，多以鲜牛奶佐以其他食物，午餐也较简单，牧民们大都是携带干粮在野外食用，晚餐一般较丰盛，都会食用肉。

主持人互动：有喜欢吃柯尔克孜传统美食的按1
喜欢吃的美食的名字以拼音发到下方

准备的饮食

5，翻译收尾，围绕以下话题展开讨论（3-5分钟）
今天介绍的就这么多，时间也差不多了，不知道你们怎么想的，我个人是下了直播要去吃酸奶了，想吃的人点一下支持，通过今天的直播你们对柯尔克孜的了解也好，今天的内容对你有没有起到一种怀念家乡的作用，对于今天的内容满不满意，节目过后我会给大家发去一份简单的调查书，还请你们能抽出宝贵的时间来填写一下。最后谢谢大家看今天的直播，我们下一期再见。